

岩手・ 大槌町から



新緑の美しい季節、こどもセンターの上を気持ち良さそうにこいのぼりが泳いでいます。

現在、大槌町では公営住宅の建設や瓦礫の処理と共に、津波の被害にあった鉄骨作りの建物（県立大槌病院、赤浜小、大槌北小、大槌中学校など）の取り壊しが行われています。今年の秋頃より始まる盛土作業を前に、震災前の面影のある建物が次々と無くなり始めている中、町は被災した旧役場庁舎の今後をめぐって揺れています。約40名の職員が亡くなった旧役場庁舎を今後どのようにするかといった問題には、「保存」「解体」という対立する二つの意見が遺族や住民の間であり、両意見が平行線のまま町長が結論を出すとした震災2年目の3月を迎えました。町長は3月の記者会見で役場旧庁舎の一部保存と跡地公園の整備という方針を発表しました。しかし「見ると辛い、怒りが込み上げてくる」など解体を求める声は町内に依然として根強く、「防災教育の拠点に」という保存へ向けた取り組みにはまだまだ多くの困難が立ちまわっています。

新・大槌小学校誕生と 2年目の大槌こどもセンター

この春、大槌小、安渡小、赤浜小、大槌北小の4小学校が統合して一つになった新「大槌小学校」が誕生しました。4月には開校式と初めての入学式が行われ、68名の新一年生を迎えました。新大槌小学校の全校児童は422名です。

大槌こどもセンターは4月で2年を迎え、多くの

子どもや保護者に広く認知されて、昨年度より多くの子ども達が当施設を利用するようになりました。5月現在で登録児童数98名、毎日30名以上の子どもが利用し、40名以上の子どもが来館する日も珍しくありません。

4小学校が統合をしたため、各学年とも以前の学校の枠組みを取り払った新しいクラス編成になりましたが、新たなクラスメイトとの関係に悩みや問題を抱えるようになった子どもが少なくないようです。その影響か、昨年からセンターを利用してきた常連の子ども達も少し情緒が不安定になり、友達とトラブルを起こす場面や職員に反抗的な態度をとる姿も見られています。私が子どものころは放課後毎日、学校の校庭でいっぱい遊び暗くなると家に歩いて帰ったものですが、被災後は遠くの仮設住宅からバスで通っている子どもが多く、放課後すぐにバスに乗らなければならないし、仮設住宅地では遊ぶ場所も友達もいない、学校の校庭は中学校と一緒になので十分には使えないなど、子どもたちのエネルギーが発散できていないといった状況があります。もちろん、被災して家を失った子どもが多く、家族や親しい人を亡くした子どもたちの辛い気持ちは決して薄れていないと感じられることもあります。

新年度を迎えて利用児童がさらに増え大変な場面もありますが、「楽しい」と言ってたくさん子どもが来館し、保護者の方々からは「助かる」といった声が多く聞かれることはこの上ない喜びです。今年度も一人一人に寄り添い見守っていきたいと思います。